



●朝の一仕事を終えて登校する寮生たち

— よく働きよく学ぶハイスクール寮生たち—

ミンダナオ最後の夜は、ハイスクール奨学生が仮住まいしている修道院の研修センターに宿泊しました。5時を回ったあたりから、朝食の準備、洗濯、トイレ掃除など登校前に各種作業をこなす子どもたちの足音、水音が枕辺に届きました。前夜遅くまで図書室で勉強しているのを見かけたので、育ち盛りの彼らの睡眠不足が心配になりました。少なくとも今の日本ではめったに見られない子どもたちの朝の光景でした。学校でも言葉のハンディを乗り越えてがんばっている様子。2年生のうち、3人までがクラスでトップ5に入っているとのこと。 (山崎)

— Fr.ノノイの離任と学生寮の建設—

上記研修センターに隣接して学生寮が建設されています。廃材を使い、土曜の午後は生徒達も作業を手伝うなど経費をきり詰めての工事が進行していました。このジェネラルサントス・ノビシエイトの寮が完成すればマーベルの生徒達もここに引っ越し、ピラーンのハイスクール奨学生は大部分ここから学校に通うことになります。

この10月にピラーン族支援担当(CMB)から離れ、ジェネラルサントスの教会への転任が決まったFr.ノノイは、ハイスクールの寮生から兄貴のように慕われていました。この寮建設は、コミュニティーのリーダー育成を目指していた彼の、「仮住まいの子どもたちに落ち着いて学べるところを」との企画に対する会員の笠井さんの資金協力申し出により実現しました。

Fr.ノノイは、当会が1996年7月に発足して以来ずっと現地カウンターパートCMBのプロジェクト責任者として、何十回となくサムラング、アトゥモロックなどの山のコミュニティーに足を運び、私たちの支援事業の監督・報告業務に当たってきました。有能で信頼できるパートナーであっただけにその離任は当会にとっても大変残念です。ただし、各種プロジェクトが継続中であることから、少なくとも来年3月までは、後継者のFr.ルーイを補佐してHANDSの活動にも助言をいただけことになっています。 (山崎)



●藤原さん持参の素麺をお箸で食べる学生達



●Bkmジャングルを歩いて水源の泉に手を洗す奈美さん / モンゴカヨ簡易水道・笠井氏助成



— クリスマスカードとプレゼントについて—

— クリスマスカード—

今年もクリスマスシーズンが近づいてきました。ピラーンの人々に対し、その伝統ある民族文化の継承を奨励しながら、一方でCMBはキリスト教的世界観や文化を山のコミュニティーにもたらしてきました。

子どもたちにカードを送られる方は、右記住所あてに直接お送り下さるか、事務局のほうに11月末までにご送付下さい。まとめて現地にお送りします。

宛先:

子どもの名前 (Bolul, T'murok, Lam-afusなどの分校名

(住所)

St. Gabriel Formation Center
P.O. Box 1108
Koronadal, South Cotabato,
Philippines 9506

<クリスマスプレゼント> ご自分の奨学生に何かプレゼントをお考えの方は、クリスマス募金にご参加いただければ幸いです。会としてクリスマス特別送金を予定しています。(締切は、12月10日)